

2018年度 神戸大学男女共同参画推進室 ユネスコチェアサマープログラム 感想・報告書
2018 Kobe University Gender Equality Office UNESCO Chair Summer Program Reflection Report

学部・研究科 Faculty/School	学科・コース Course
海事科学部	グローバル輸送課学科

- 1 見たこと
- 2 考えたこと
- 3 感じたこと

私はインドネシアに行く前、現地の学生とコミュニケーションがうまくとれるのだろうか、他の神戸大学の学生とうまくやっていけるだろうかといった漠然とした不安を抱えていました。そんな不安が吹き飛ぶくらい、2週間は楽しく、あっという間に過ぎて行きました。

まず、英語でのコミュニケーションですが、インドネシアの人たちも、よく聞いてみるとちゃんとした英語を話していないので、こんな感じでいいのだと割り切って英語を話すことができ、交流をすることができました。そして、インドネシアであった人たちは、皆、とても優しい方たちばかりだったので、一緒にいて本当に楽しかったです。ただ、もう少し、語彙力があれば、ディスカッションができたり、会話が弾んだりしたのかなと感じることもあり、もっと英語の勉強をがんばろうと思いました。

文化的な面について驚かされたことがたくさんありました。まず、今回、初めてイスラム圏に行ったのですが、イスラム教の方はみな、御祈りの時間になると、必ずモスクに行き、お祈りをしていました。様々な場所にモスクは設置されており、空港にはトイレの近くに設置されており、宗教が根付いているのだと改めて感じました。次に私的にショッキングだった、トイレ事情です。まず、トイレにトイレットペーパーが流せないということです。それ以前にトイレットペーパーが無いところが多く、自分でトイレットペーパーを持参していました。一番トイレで辛かったことは、水がレバーやボタンを押しても流れないために、横に設置されている桶から水を汲んで流さないといけなかったことです。中の水が思いつき跳ねるし、そういったトイレに限って手洗い場がものすごく遠い所にしか設置されていなかったりと慣れるまでとても苦労しました。最後に、国柄がでていのかと思ったのが、店員さんの様子です。地元の人に人気なお店でも、どんなに高級なブティックでも、店員さんは自由なスタイルでお店に立っていました。例えば、壁に寄りかかってスマホを触っていたり、地べたに座ってスナックを食べたりと日本では考えられない光景でした。でも、そのようなことを堂々としてもお客さんは平然とされていて、キチキチしていない雰囲気ストレスフリーな感じがしたので、なんだかそういったところを日本は見習わないといけないのかなと思いました。でも、やっぱり、インドネシアに行って、そういった文化を見て、日本が好きだなと感じました。

勉強面ですが、災害とジェンダーの脆弱性といったテーマで講義を受けていましたが、私の専攻しているテーマであるロジスティクスは災害時のキーポイントになるのだという事を知れました。